

教室で気軽に身につく表現力

～「Web学級日誌」と「1分間スピーチ」が子どもを変える～

金沢市立大野町小学校 教諭 辻 和久

1. はじめに

教室に1台のコンピュータが入り、容易で効果的な授業実践を数多く行うことができるようになった。子どもたちにとって魅力的なコンピュータを学習場面以外ではそのまましておくのはもったいない。カリキュラムにある学習場面以外からも何か工夫できないだろうか・・・そこで、「Web学級日誌」や朝・終わりの会での「1分間スピーチ」など授業以外の場を生かして、『表現力(書く力話す力)』を身につけさせようとした実践である。



図1 T児の第1期の日誌

2. 書く力をつける

1学年20名ほどの小さな単級の学校である。子どもたち同士は、小さい頃から人間関係が固定化されていて、言葉を介さなくても、なんとなく伝わるという間柄でもある。表現することやコミュニケーションをとることに少なからず抵抗がある実態から、書くこと・話すことを身につけさせたいと考えた。



図2 T児の第2期の日誌

2003年度と同じく2004年度も5年生(19人)の担任をすることになった自分は、昨年度の反省から、2004年度は「Web学級日誌」を「楽しい」を中心に使うのではなく、学習時間以外からも書く力をつけさせる仕掛けと考え、以下のように重点的に指導した。

- 第1期 4月～7月「たくさん書き込もう」
- 第2期 9月～12月「画像を効果的に使って書こう」
- 第3期 1月～3月「要約して書こう」

第1期から第3期のように、大まかな段階を踏んだことや、毎日の家庭学習で学校でのことを日記風にふりかえったことで、書く力が少しずつ伸びているように感じた。学級日誌は一日のふりかえりをするという目的がはっきりしている。その目的達成のために、上記の重点を示したことで、その効果も上がったと考えられる。



図3 T児の第3期の日誌

また、「Web学級日誌」の特性の一つとして、全国のユーザーからも書き込んだ「Web学級日誌」を見ることができることがあげられる。つまり、誰からも見られるという「相手意識」が子どもたちの日誌の書き込みに効いているということがわかる。

図4は、3月上旬にT児が書いた「6年生を送る会」のふりかえり新聞である。これまでと違っていたのは、まとまりごとに色分けしていること、見出しのポイントをしぼっていること、書式も縦書きだけでなく、横書きを取り入れていたのである。



図4 T児が3月に作成した新聞

3. 話す力をつける

2004年度、もう一つ継続的に取り組んだことが、朝の会、終わりの会での「1分間スピーチ」である。場慣れするためだけに、このスピーチを選んだのではなく、自分の思いを言葉で伝えることが如何に難しいことかを体験すること。画像や音声を使って説明する工夫や、聞きやすい話のスピードなどを身につけてほしいことが理由で、選んだ。国語の学習からだけでは時間数が足りないことや書く力で重点的に使った「Web学級日誌」を大画面に出力することで、日誌も見ながら、一日をふりかえりできるのではないかと考えた。(また、当番でない児童は15秒だけのスピーチを毎日している。)

図5は「Web学級日誌」を映しながら、スピーチしている。図6は、「Web学級日誌」からの画像では、小さいとの判断から、自分が伝えたい画像を拡大表示しながら、スピーチした。(しかも、この児童は、サイバーボードに指で文字などを書き入れながら、スピーチしたのである)

話す力をつける上でも、「目的意識」「相手意識」は重要である。朝や終わりの会で一日をふりかえることは、クラスメートという聞く側もいるので、そのまま相手意識が育つと考えられがちだが、もう一步踏み込んで、相手意識を持たせる仕掛けとして、「今日、一番聞いてほしい人に一分間メッセージ！」なども取り入れてみた。(図7)

図8は、国語の「体験したことをわかりやすく伝えよう」として、4年生に「しょう油づくりの秘密」を伝えるスピーチをしている場面である。これまで、スピーチを行って来て、国語の話す力にどう効いているのかが気になるところである。4年生の児童から、わかりにくい、話すスピードが速すぎるなどの指摘がなされ、5年生はがっかりしていたが、これにより課題が明確になった。以下に子どもたちが話し合った課題をあげる。

話を知らない人に話す時は、意味をわかりやすく話す。

下の学年にスピーチする時は、思った以上にゆっくりとしたスピードで話す。

話す力をつけるために、教師は相手が意識できる「話す場」をいかに用意してやるかが、ポイントであることが見えてきた。



図5 終わりの会でのスピーチ



図6 終わりの会でのスピーチ



図7 今日一番聞いてほしい人に



図8 しょう油づくりを4年生に

ありがとうございました。
ご意見、ご感想はこちらまで・・・

H P <http://www.kazuhin.com>

E-mail kazu@yu.incl.ne.jp

IT活用実践研究中川塾 1期生 辻 和久